

手をたずさえて

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成30年6月8日(金)発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

本気になって取り組んだ掃除で学んだこと

今回の「郡山掃除に学ぶ会」掃除実習を通して、考えたこと、感じたこと、学んだことを6名の生徒に書いてもらいました。どの生徒の感想にも“心の変化”、そして“実習をやってよかった！”という思いが感じられました。

僕は、この「郡山掃除に学ぶ会」の参加は初めてでした。最初は、掃除の時間が2時間あるのを聞いて、「え？長くない？トイレ掃除なんて15分あればできるよ」と思っていました。

いざ、トイレ掃除に入ると、電灯から便器のふたを外してまで徹底した作業が始まりました。長いと思っていたのは、ここまで本気に本格的にトイレ掃除をしたことがなかったからでした。掃除用具がたくさんあって混乱したけど、リーダーさんやサブリーダーさんの丁寧で分かりやすい指示のおかげでスムーズに作業を進めることができました。僕は大便器を掃除しました。最初はかなり抵抗がありましたが、ずっとやっていくうちに、夢中になって素手でさわることにも抵抗がなくなりました。終わった後、改めて見ると、臭いも無くなり、とてもきれいになっていて気分もスッキリしました。普段はこんなことができる機会がないので、とてもいい経験になりました。今後、家でも生かしていきたいし、また「郡山掃除に学ぶ会」の実習に参加したいです。「郡山掃除に学ぶ会」のみなさん、ありがとうございました。

(1-2 藤田源一朗)



私は今まで掃除のボランティア活動によく参加していました。小学校の掃除の他にも、地域の公園の草むしりなどにも参加していました。ですが、小学6年生になったあたりから、いろいろそ忙しくなり、疲れていることが多かったのも、あまり参加しなくなりました。でも今回の「郡山掃除に学ぶ会」に参加して改めて掃除が楽しいということに気づかされました。

最初、掃除内容を知った時は「素手でトイレ掃除!?!」「きたないのかな」と思っていて、当日も「きたないの でいやだなー」と思っていました。でも、部活の先輩と同じ班になったり、リーダーさんやサブリーダーさんも優しい方で少しずつ楽しくなり、掃除が始まって気がつけば、必死で便器の裏についた汚れをとっていました。そのころには「きたない」なんて言葉は頭から消えていて、それよりも「楽しい」という言葉が思い浮かんでいました。そして、掃除が終わって自分が掃除した便器を見てみると、最初とは全く違うピカピカの便器になっていて、自分でも驚いたくらいです。ピカピカの便器を見たら、しゃがんだり立ったりを繰り返していた疲れも一気に吹き飛ばされて、とてもいい気持ちになりました。今回の活動を通して、もう一度楽しさに気づいたので、最近では自分の家のトイレ掃除もしています。自分も使う所をきれいにしておけば、日々の生活でもいい気持ちで過ごせるのではないかと思います。掃除は身のまわりがきれいになって、自分にも得だし、環境にも周りの人にも得です。この活動でそのようなことがわかったのでよかったです。

(1-7 佐藤淳彩)



最初は正直「素手でトイレを掃除するなんて嫌だ」と思っていました。トイレを目の前にすると、黒ずみや水あか、そしてあの悪臭が待ち構えていました。まず最初に、スポンジを使ってトイレの水を抜きました。次に網戸のようなやすりでトイレの黒ずみを落としました。掃除を始める前、私は一番この作業が嫌だと思っていたのですが、一度トイレに手を入れると、「汚い」という考えはなくなり、自然とトイレに手を突っ込み、少しでも多く汚れを落としたいという気持ちになりました。やすりが破れるまで頑張ったので、班のリーダーさんに「良くできていると思います。きれいだね」と言われました。頑張った成果が出た気がして嬉しかったです。そして、トイレ内の金属部分も水あかが積み積もっていましたが、ナイロンたわしを使って見違えるほどきれいに掃除ができ、とても心がスッキリしました。

班のみんなで協力し掃除を徹底的に行ったので、便器やトイレの床はもちろ ん、あの悪臭が消えて、とてもきれいなトイレになりました。掃除は達成感と爽快感が味わえることを学びました。そして、頑張った掃除をしたので、みんなにはきれいに使ってほしいです。

(2-6 林 那夕)



「郡山掃除に学ぶ会」に参加して、僕はトイレ掃除の担当でした。今まで僕は「トイレは用を足すところ」と思って、あまり目を向けていなかったせいか、改めて学校のトイレを見てみると、少し汚いと感じました。でも、汚い物ほどきれいにすると、何となくやりがいを感じます。僕は主に小便器の掃除をしました。リーダーやサブリーダーなど大人の方々に掃除の方法を教えてくださいました。その話の中で驚いたことがありました。それは、小便器の穴に手を突っ込むことでした。開会式前に手を液体でコーティングしたとはいえ、すごく抵抗がありました。小便器掃除を始めると、「尿石」というへばりついた物をとるものであるマイナスドライバーを使わずずっと掃除をしていました。しかし、奥の方になってくると、なかなかしづとい尿石になっていきました。僕はもうマイナスドライバーでとることを諦め、手を入れました。あみがかった道具での掃除だったので、その尿石が手につきました。嫌な物は急いで終わらせた方が良く、何回も何回も頭の中で連想させました。終わった時は、汚いなど思いつつも達成感がありました。そのピカピカのトイレを見ると、うれしくなりました。最後はタイル磨きをしました。タイルのつなぎ目がすりへってしまうことを防ぐために、円を描くようにして磨くと教えられ、タワシで必死になって磨きました。これもまた、以前よりずっときれいになりました。そして、昼食のカレーはすごくおいしかったです。いろいろな人の思いが詰まっているカレーだなと思いました。「郡山掃除に学ぶ会」に参加することで、掃除の楽しさや達成感を味わうことができました。また、グループに分かれることで協力の大切さも知ることができました。今まで家のトイレ掃除は母がしてくれていました。でも「休んでいて」と声をかけてトイレ掃除を行いたいです。そして、家のトイレを今回の会でやったようにピカピカに、料理も今回の会で食べたような美味しいカレーを作っていきたいです。(2-2 今野虹典)

僕は掃除実習に参加して「気付く」ということの大切さについて学びました。

ワークスペースの掃除が始まる時に、リーダーの方が「汚れているところを自分で探して掃除してみなさい」というようなことをおっしゃいました。そして、サッシの汚れや隅にたまったほこりを掃除していくうちに、「もっときれいにできないだろうか」「他に汚れている場所はないだろうか」と、不思議とやる気がわいてきました。同じ班のメンバーも同じような心情だったのか、最初はリーダーの指示をきいてそれをこなしているだけでしたが、時間がたっていくうちに、壁や床のきずや汚れを積極的に見つけては熱心に磨いていました。

自分から気付いて掃除することを通して、自主性や最後までやり遂げようとする責任感が養われたと思います。また、作業を終えた後のメンバーは、皆さっぱりとした良い顔をしていて、やりがいを感じているようでした。僕も、2時間という長い時間懸命に掃除したことはなかったのに、疲れもありましたが、それ以上に楽しさと達成感がありました。

掃除が終わった後の昼食は、体育館に参加者全員が集まってとてもにぎやかでした。充実した作業の後とあって、より一層食事がおいしく感じられました。

最後に、掃除での「気付き」を通して身についた自主性や責任感を忘れずに、日頃の清掃や普段の生活を頑張っていきたいと思っています。(3-5 渡部 翔)



「掃除をすることで小さな感謝に気づける人間になる。謙虚な人間になれるんです」

リーダーの塚越さんの一言に正直ドキリとしました。「感謝」「謙虚」。頭では大切だと分かってはいても、本当に実行できているのだろうか…そう思ったからです。例えば、練習試合の日。自分の仕事もあるため、4時起きて私のお弁当を作ってくれる母や遠方への送迎も文句ひとつ言わずしてくれる父。忙しい両親にとってすごく負担になっているはずなのに、当然と思い込み、「ありがとう」が口から出てこない。小さな「感謝」に気づけず傲慢な態度でいた自分がつい恥ずかしくなりました。だからこそ、本気で掃除に取り組もう…自分の中でスイッチが入りました。ヘド口のたまった排水口も躊躇せず素手で掃除ができました。掃除は人を変えることができると身をもって実感した瞬間でした。研修を終えて、私が自分にひとつ約束したことがあります。それは、「毎日15分間の掃除の時間、本気で掃除をする」ということです。一日一日の小さな積み重ねが、いつか大きな実を結ぶ。「清掃に力あり」…。この言葉を信じて、これから生活していこうと思います。(3-4 高橋 奈々)

今回の実習では、たくさんの収穫がありました。市総合体育大会の直前にもかかわらず、全校生徒の約3分の1の生徒が参加し、参加した生徒が本気になって作業に取り組んだこと。そして作業終了後、みんながとてもいい顔になっていたこと。参加した方々から、生徒の取り組み姿勢がとても素晴らしいとたくさん称賛を受けたこと。さらに「日本を美しくする会」会長の利 哲雄さんからは、普段の清掃など本校の環境美化が普段からしっかりと行われているというお話があったこと。事務員の古川さんの地道な働き、そして普段の清掃にも真剣に取り組む生徒が多くなってきているからだと思っています。…「清掃は心を磨く」と言われています。心は取り出して磨くわけにはいかないので、目の前に見えるものを磨く。特に、人の嫌がるトイレをきれいにすると、心も美しくなる。人は、いつも見ているものに心が似てくる。…参加した生徒は、あの作業、そして心をこれからも大切にしてほしいと思います。そして、この輪を広げてくれることも期待します。今回の実習での経験を生かし、手を抜かず、本気になって掃除に取り組む学校をめざしていきたいと思います。このような機会を与えていただいた「郡山掃除に学ぶ会」事務局の方々、会員の方々、遠方から参加された関係者の方々に心より感謝申し上げます。

